

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	1
都道府県名	北海道

【  】  
 \*重点をおいた観点にチェックすること

### 学校名及び規模

学校名	鷹栖町立北野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	14
児童数	27	32	15	29	25	36	2	166	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育てる授業の創造 ~学ぶ楽しさとわかる喜びにあふれた授業を求めて~

#### (2) 研究主題設定の趣旨

##### 研究の見通し(仮説)

- 1 教材教具や問題の提示を工夫し、子どもたちの知的好奇心や探求心を高める算数的活動を取り入れることで、学習意欲が喚起され、自ら進んで問題解決に取り組むことができる。
- 2 繰り返し学習やチームティーチングを取り入れることで、子ども一人一人の実態を的確に捉えるとともに、確実に指導内容の定着を図ることができるだろう。
- 3 単元や授業の中に、子どもが自ら学習を振り返る場面を設定することで、子ども一人一人が自分の学習状況を確認することができ、自分自身の変容やお互いのよさを認め合い、次の学習への意欲化が図れる。

##### 研究内容・方法

- ・学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫
- ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
- ・一人一人のよさや可能性を伸ばし、個を生かす評価の工夫

### 研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

#### (1) 研究推進体制の工夫

##### 研究推進委員会

<教頭, 教務(フロンティアティーチャー), 研修部長, 校内研修担当, 教科担任>(5名)

昨年度は、教育課程検討委員会が推進の主体であったが、今年度は研究推進委員会が研究を推進してきた。特に、低学年ブロック(第1~3学年)と高学年ブロック(第4~6学年)の2ブロック体制を継続し、充実した研究を目指し取組を進めてきている。

#### (2) 研究の実際

### 学習意欲を高める工夫

#### 手立て

子どもの思考の流れをとらえた指導計画

算数科における子どもの意識調査や単元の事前テスト等の結果を踏まえ、子どもの思考の流れと指導内容の関連を図ります。

子どもの知的好奇心や探究心を高める問題提示の工夫

子どもの身近な日常生活場面と結び付けた問題などを提示し学習に対する興味・関心を喚起しながら学習意欲を高めていきます。

子どものよさや可能性を生かす評価の工夫

子ども一人一人の実態を把握し、適切に評価するとともに、次の学習指導に生かすようにします。また、単元の目標や1単位時間における指導目標の実現を目指し、評価規準を指導計画に位置付けています。

#### ねらい

#### 指導の実際

子どもの学習状況に応じた幅広い支援を準備し、子どもの学習意欲を高める具体的な手立ても明確にすることができます。

##### <本校の問題提示をする上での配慮事項>

- 子どもの思考を広げる問題提示
- 子どもの思考を揺さぶる問題提示
- 子どもの思考を深める問題提示
- 子どもの多様な考えを引き出す問題提示

単元全体において、4観点の評価規準を明確にするとともに、指導内容を踏まえた観点別の評価規準を指導計画に位置付けています。また、指導過程における子どもの学習状況を積極的にとらえ、次の学習指導に生かすため、「学習指導チェック表」を活用して、評価の積み重ねに努めています。

# 学ぶ楽しさを実感させる指導方法・指導体制の工夫

## (1) 本校でおさえたコース別学習のねらい

子ども自らが、自分の学習の進み具合や学習状況を踏まえて、習熟の程度や関心等に合わせて学習課題に取り組むことができるようにしています。  
 課題の量を工夫し、2度、自主的に選択できるようにすることにより、わからないことがわかったり、自己評価をし継続して課題に取り組む姿勢を身に付けたりすることができるようにしています。

過程	児童の活動	教師の活動 T1個 T2個	支援と評価
きづく	学習課題を確認する ・大雪山コース(基本的な問題) ・富士山コース(標準的な問題) ・エベレストコース(発展・応用問題)	コース別学習の課題を提示する	プリントコーナーを用意し、3種類のプリントを配布
たどる	どのコースから取り組むか自分で考える	どのコースから取り組んでもいいよ 自分の学習のつまずきを教師と確認し合い、大雪山コースへの変更をうながしたり、わかったことを認め合ったりする。	T1 T2は、机間指導をしながら個別指導に当たる

  

**基本的な問題にフィードバック**

わかる喜びを感じさせ、次のコースへうながす支援をする。

**発展応用問題にチャレンジ**

算数プラス16 ぶんりんと No. 4-06

チャレンジコース 大雪山

① 直方体の体積を求めよう。

② 上の①と体の直方体の体積を  $\text{cm}^3$  を使って求めてみよう。

算数プラス16 ぶんりんと No. 4-06

チャレンジコース 大雪山

① 直方体の体積 = (たて) × (横) × (高さ)

② 面積の単位には、 $\text{cm}^2$  や  $\text{m}^2$  を使い、体積の単位には  $\text{cm}^3$  や  $\text{m}^3$  を使う。

2枚目の課題を選択し、取り組む。

## (3) 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- 研究内容1 <学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫> について
- ・指導内容を踏まえた指導方法を明確にすることにより、見通しをもった授業を構築することができた。
  - ・教科書の指導内容を分析し、指導計画に基礎的・基本的な内容を位置付けることができた。
  - ・子どもたちが意欲的に活動し、思考を深めることができる教材教具の提示の仕方などの工夫することができた。
- 研究内容2 <個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫> について
- ・チームティーチングを取り入れたことにより、より個に応じた指導を行うことができた。
  - ・「繰り返し学習」を行うことにより、算数の苦手な子ども1時間の中で理解を深めていくことができ、意欲的に学習に取り組めるようになった。
  - ・授業中での計算スキルの活用や「コース別学習」の導入により、子ども自らが習熟の程度に応じてコースを選択することができ、意欲的に学習に取り組めるようになった。
- 研究内容3 <一人一人のよさや可能性を伸ばし、個を生かす評価の工夫> について
- ・評価の観点を明確にし、1時間ごとの評価規準を指導計画などに位置付けることができた。
  - ・単元の導入前や学習過程において、事前テストや学習指導チェック表等により、子どもたちの学習状況を的確に把握し、指導の改善に生かすことができた。

#### 《資料1》

観点別の実現状況(教研式CRT学力検査より)

A: 十分満足 B: おおむね満足 C: 努力を要する

観点項目	現6年	15年度(6年時)		14年度(5年時)	
		全国(%)	学級(%)	全国(%)	学級(%)
関心・意欲・態度	A	80	67	52	31
	B	15	28	31	40
	C	5	6	16	29
数学的な考え方	A	34	19	28	11
	B	27	36	31	20
	C	39	44	42	69

観点項目	現5年	15年度(5年時)		14年度(4年時)	
		全国(%)	学級(%)	全国(%)	学級(%)
関心・意欲・態度	A	76	56	62	44
	B	17	28	27	35
	C	7	16	11	19
数学的な考え方	A	41	36	53	42
	B	28	28	23	31
	C	31	36	24	27

表現・処理	A	57	44	42	17
	B	28	22	34	46
	C	15	33	24	37
知識・理解	A	75	53	40	3
	B	18	31	39	57
	C	7	17	20	40
全観点	A	57	44	35	11
	B	33	31	37	37
	C	10	25	28	51

表現・処理	A	70	60	55	38
	B	18	20	27	27
	C	12	20	17	35
知識・理解	A	78	68	55	42
	B	16	24	31	42
	C	6	8	14	15
全観点	A	65	56	53	46
	B	27	24	30	27
	C	8	20	17	27

《資料2》算数の勉強は好きですか<校内算数学習アンケートより抜粋>

	学年	3年	4年	5年	6年
回答選択肢	年度	昨年	今年	昨年	今年
好き・楽しい		10	12	11	8
ふつう		4	4	15	15
嫌い・つまらない		2	0	3	6

## 2 今後の課題

今年度の研究から以下のような課題に引き続き取り組む必要がある。

本時の目標を達成するための有効な問題作成や問題提示の工夫が必要である。

チームティーチングの効果的な取り入れ方や、個に応じた指導方法を工夫する必要がある。

学習内容の理解を図る教材を開発するとともに、計算力など基礎的・基本的な事項の定着を図る必要がある。

自己評価や相互評価も含め、次時への意欲を高める評価活動を工夫する必要がある。

特に、次年度は指定の最終年度であり、2年間の算数科を中心とした成果を生かし、他教科への取組の拡大や、教員の専門性を生かした教科担任制の拡充についても取り組む必要がある。

### (4) 研究成果の普及の方策

・研究会、説明等の開催実績及び開催予定

期 日	場 所	テ ー マ	対 象
平成15年11月28日	北野小学校	学力向上フロンティア公開研究会	全道, 地域, 保護者
平成16年2月7日	北野小学校	地域参観日	保護者, 地域

<その他>

・平成15年度北海道公立学校教育課程実践研究成果への応募<全文掲載>

### (5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓ 14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	✓ 7~12学級		
	13~18学級	19~24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	✓ T・Tによる指導		
	✓ 一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	✓ 算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	✓ その他(総合)		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓ 有	無	

### 【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

本校では、学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業の推進を目指し、個に応じた指導方法・指導体制の研究、個性を生かす評価の研究(自己評価・相互評価の取組)、効果的な教材の開発や指導方法の工夫・改善、「図形」領域等の学習におけるパソコンの導入などに努めています。